

LA-2560、LA-5560、LA-5570 騒音計の校正・調整

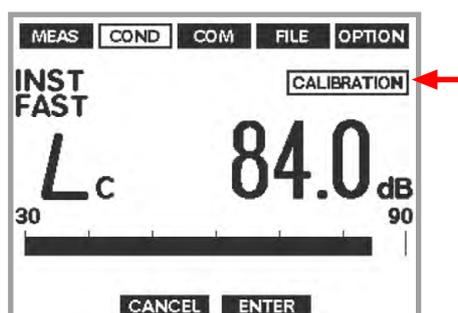
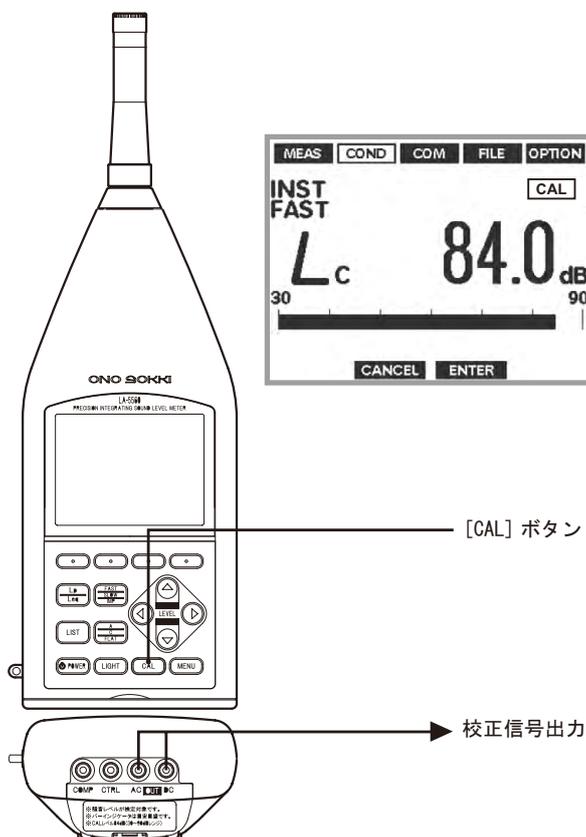
LA-2560、LA-5560、LA-5570 騒音計の校正・調整

LA-2560、LA-5560、LA-5570 騒音計の校正は、内部発信器による方法と、SC-3100 などの音響校正器で行う方法があります。騒音計をお使いになられる際には、日常点検として騒音計の校正を行ってください。

騒音計の内部発振器の CAL 信号を使用する簡易的確認方法

騒音計の[CAL]ボタンを押し、表示される値が基準値とあっているか確認します。周波数特性は C または P (フラット) 特性を使用します。

レンジにはノーマルレンジとワイドレンジがあり、基準値はノーマルレンジの場合は上限値の-6dB の値 (90dB レンジでは基準値は 84dB)、ワイドレンジでは上限値の-16dB の値 (120dB レンジでは基準値は 104dB) になります。ずれている場合には次の「調整操作」の項目に従い調整を行ってください。



< 備考 >

レベルレンジにはノーマルレンジとワイドレンジの2種類あります。次の表を参考に、用途や目的に合わせ適切なレンジを設定してください。

LA-5570	LA-5560 / 2560	レンジモード	インジケータ分解能
30 ~ 120	40 ~ 130	ワイドレンジ	0.3dB
20 ~ 110	30 ~ 120		
60 ~ 120	70 ~ 130	ノーマルレンジ	0.2dB
50 ~ 110	60 ~ 120		
40 ~ 100	50 ~ 110		
30 ~ 90	40 ~ 100		
20 ~ 80	30 ~ 90		
10 ~ 70	20 ~ 80		

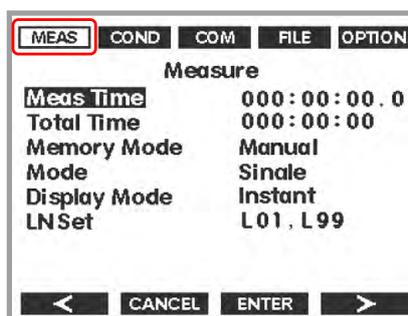
2. [CAL] ボタンをもう一度押して測定に戻ります。CAL の文字が消えます。
3. CAL 表示値がずれている場合は、以下の調整操作を行います。

調整操作

調整校正方法にはマイクロホンを含めて校正を行う「SC-3100 音響校正器を使った校正」とマイクロホンを除いた簡易的な方法としての「内部発信による校正」があります。「SC-3100 音響校正器を使った校正」をお勧めします。なお、校正時の周波数重みはC特性、またはP(フラット)特性に行ってください。

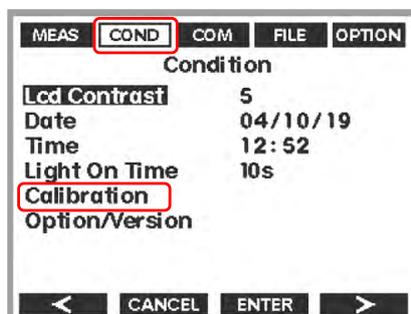
1. SC-3100 音響校正器を使った校正方法

パネルスイッチ [MENU] を押しメニューモード画面に切り替えます。MEAS - Measure メニューが表示されます。

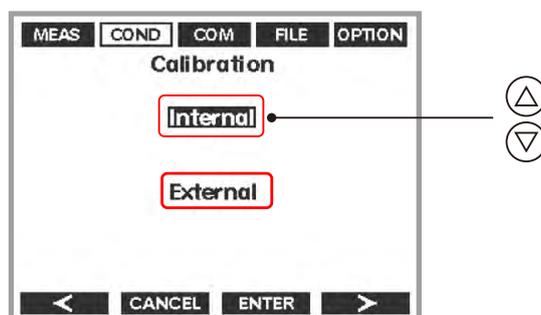


[◀ ▶] (Soft1/4) スイッチを押し、COND : Condition 画面 を選択します。

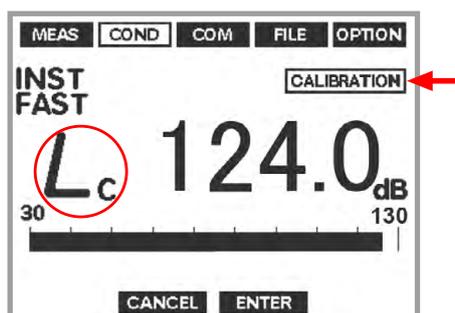
[↑]・[↓] (十字キー) により [Calibration] を選択し、[ENTER] (Soft3 キー) を押します。



次に、[↑]・[↓] (十字キー) により [External] を選択し [ENTER] (Soft3 キー) を押します。

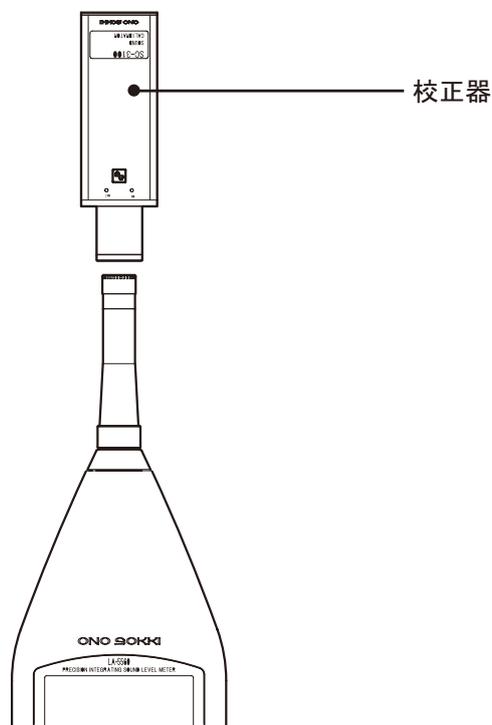


レベル調整の画面を表す [CALIBRATION] マークが表示されます。パネルスイッチ [A/ C/ FLAT] ボタンを押し「Lc」または「Lp」にします。



パネルスイッチ []・[](十字キー) を押しレベルレンジを 130dB にします。

SC-3100 音響校正器のマイクロホン挿入口の奥に当たるまで騒音計マイク部をしっかりと取り付けます。



音響校正器の電源を ON し、校正音を発生します。SC-3100 型音響校正器の基準音圧は 124dB (±0.3dB) SLP です。

表示値が基準音圧 124.0d と同じ値を表示するように調整します。基準音が安定した状態であることを確認します。

表示値はパネルスイッチ [◀] を押すと小さく、[▶] を押すと大きくできます。

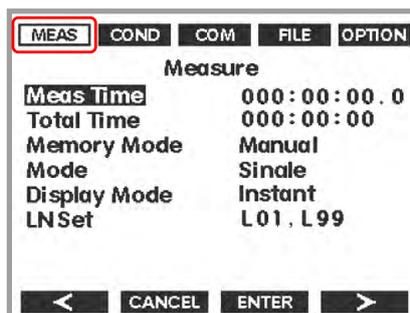
調整後、[ENTER](Soft3 キー) を押し設定を確定します。[Calibration] 画面に戻ります。なお、[CANCEL](Soft2 キー) を押すと、調整をキャンセルし[Calibration]に戻ります。

[MENU] ボタンを押し測定画面に戻ります。

2. 騒音計内部発信器を使った校正方法

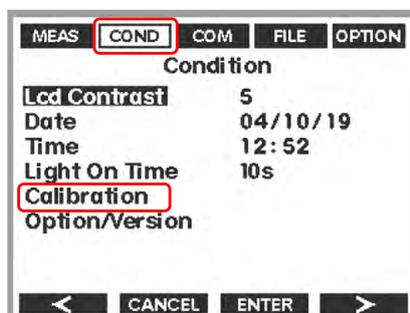
内蔵発振器による校正とは、マイクロホンの感度が変わっていないことを前提にして、騒音計本体を電氣的に校正する方法です。従って、マイクロホンを含んだ調整を行うためには、1項の「SC-3100音響校正器を使った校正方法」をお勧めします。

パネルスイッチ [MENU] を押しメニューモード画面に切り替えます。
MEAS : Measure 画面が表示されます。

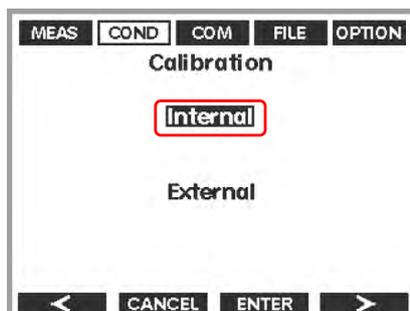


[◀▶] (Soft1/4) スイッチを押し、COND : Condition 画面 を選択します。

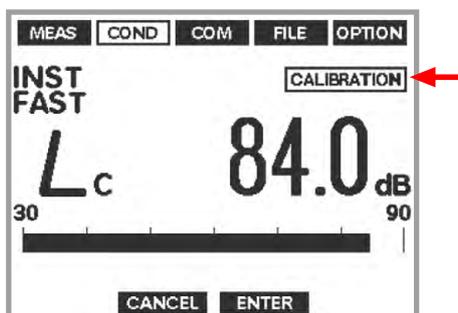
[[]・[] (十字キー) により [Calibration] を選択し、[ENTER] (Soft3 キー) を押します。



次に、[[]・[] (十字キー) により [Internal] を選択し [ENTER] (Soft3 キー) を押します。



次のように内蔵の校正信号が出力され、レベル調整の画面に [CALIBRATION] マークが表示されます。パネルスイッチ [A/ C/ FLAT] ボタンを押し「Lc」または「Lp」にします。



レベルレンジを測定で使用するレンジに設定します。ノーマルレンジとワイドレンジがあります。

表示値が基準値になるように調整します。基準値はノーマルレンジの場合は上限値の-6dB の値（90dB レンジでは基準値は 84dB）、ワイドレンジでは上限値の-16dB の値（120dB レンジでは基準値は 104dB）になります。

表示値はパネルスイッチ [<] を押すと小さく、[>] を押すと大きくできます。

[ENTER] (Soft3 キー) を押し設定を確定します。[Calibration] 画面に戻ります。なお、[CANCEL] (Soft2 キー) を押すと、調整をキャンセルし [Calibration] 画面に戻ります。

パネルスイッチ [MENU] を押し、測定画面に戻ります。

- 以上